

日本女性会議2016秋田報告・大会概要

<10月28日(金)>

○開会アトラクション(13:30~13:45)

竿燈演技：秋田市立保戸野小学校竿燈クラブ
秋田市立築山小学校竿燈クラブ

秋田竿燈まつりは、秋田の夏の風物詩で俵型をした提灯を竿に吊るして大きな稲穂に見立てて、竿を操って力と技を競う祭り。アトラクションでは、小学生たちが小型の竿燈を見事に操り、民俗文化財を伝承している姿に感動した。



○開会式(13:45~14:10)

あいさつ 秋田市長 穂積志
実行委員会委員長 中村順子
(秋田大学大学院医学系研究科教授)

祝辞 秋田県知事 佐竹敬久
秋田市議会議長 渡辺正宏



○基調講演(14:10~14:40)

「男女共同参画施策の現状と今後の課題について」 内閣府男女共同参画局長 武川恵子

2016年のGEMは111位、外国は選挙でポジティブアクション(クォーター制)を導入している。経済でもポジティブアクションに取り組んでいる。夫が家事育児をすると、第2子が生まれやすい。アジェンダ2030 持続可能な開発目標 SDGs

(2015年9月、全国連加盟国(193国)は、より良き将来を実現するために今後15年かけて極度の貧困、不平等・不正義をなくし、私たちの地球を守るための計画「アジェンダ2030」を採択した。この計画が「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」。SDGsは、ミレニアム開発目標で十分に手を打てなかった課題に加え、Rio+20で議論された深刻化する環境課題など17の目標と169のターゲットに全世界が取り組むことによって『誰も取り残されない』世界を実現しようという壮大なチャレンジ。)

○記念講演(15:00~16:30)

「違いこそが個性を作る、自信を作る、魅力を作る」

講師：藤原美智子(ヘア・メイクアップアーティスト)

藤原さんは、秋田県横手市出身で多くの雑誌や広告撮影のヘアメイクや執筆、化粧品などのアドバイザーを行っている。あまり講演はしないとのことで、持ち時間は90分だったが予定していた原稿が60分で終わり、後半は会場とのQ&A



で盛り上がり楽しい講演となった。どんな人がきれいですか？と尋ねられると、いつも「生き生きした人です」と答えるそうだ。まさにそのとおり、年齢を感じさせない「生き生き」とした美しい人だった。

21歳：ヘアメイクに取り組む。

27歳：隣の芝生を見るのはやめよう。

38歳：心と体に限界。体が悲鳴を上げる。

42歳：毎日3時間のヨガ。余裕が出てきた

43歳：自分をリセットし、出直す。

行動→失敗→それが生きること。生きるように生きていく。

個性→自信→余裕→人にやさしくなれる。

48歳：そろそろ私生活を楽しんでもいいかな？

50歳：結婚。結婚する理由・・・自分の価値観を受け入れる。

Q&A

Q 人生で一番印象に残った仕事は？

A 先生が急に用事ができて、アシスタントでヘアメイクしたこと。

Q 自分を「生き生き」させるものは？

A 自分がうきうきすることをすればよい。「うきうき」「生き生き」するために美容する。

「生き生き」しているから美しい。内面が外見を変える。

○交流会（17：30～19：00）

オープニングは、国内のみならずフランスやマレーシアなど海外公演でも活躍している、和太鼓パフォーマンス「NAMAHAIGE（ナマハゲ）郷神楽」で始まった。秋田県は地酒条例があり、祝宴の乾杯はビールでなく地酒ですとのこと。たくさんの地酒があり、乾杯のお酒はとても美味しかった。

地元秋田の郷土料理をいただきながら、参加者や分科会の講師などと交流を楽しんだ。来年度の開催地の苫小牧からも参加のアピールがあった。



テーブルは中国・四国地域



左：上野千鶴子さん

中央：中村実行委員長



メイン会場の秋田県民会館

<10月29日(土)>

○分科会(9:30~11:30)

- ① 人権 女性たちの今。そして未来をつくる。女性参政権から70年、雇用機会均等法から30年 講師：上野千鶴子さん
- ② 女性の活躍1 女性の活躍を進めるために必要なこと、困難なこと～自分も相手も大切にするアサーティブなコミュニケーション～ 対談者：小柳茂子、米山奈奈子
- ③ 女性の活躍2 農業の活性化は女性の「農力」から～6次産業化×情報発信～コーディネーター：楢本歩美
- ④ ワーク・ライフ・バランス イクボスで企業が変わる・社会が変わる！
～少子化・女性活躍時代におけるイクボス式マネジメントのすすめ～
- ⑤ 地域づくり1 “地域消滅”“トップランナー秋田「今」と「これから」
～そもそも男女共同参画って何？～ コーディネーター 佐々木尚樹
- ⑥ 地域づくり2 地域の魅力を発見、発信 コーディネーター 藤田ゆうみん
- ⑦ 子育て「できるって何？」～多様性に対応する秋田の子育て～
対談者 阿部英子、石山宏央、竹内治子
- ⑧ 高齢社会 ともに生きる喜びをはぐくむ高齢社会 コーディネーター 後藤純
- ⑨ 貧困 すべての子どもが希望を持ちながら大人になれるように
～ひとり親家庭から見てきた貧困～ コーディネーター 岩田美香
- ⑩ 国際社会 違いを超えて、生き方を選択できる地域づくり
～多様性を認めた先にあるもの～ コーディネーター 野山広

○昼食(11:30~13:00)

○アトラクション・民謡(12:20~12:45)

○分科会報告(13:00~14:00)

分科会報告では、10分科会の報告者から、それぞれ内容の要点をコンパクトにまとめた報告があった。スライドで会場の様子も紹介された。

○シンポジウム(14:15~15:45)

秋田発「ケアリング(気遣いあう)」社会をめざして～生活の場から「多様性」を考えよう～

コーディネーター 中村順子(大会実行委員長)

シンポジスト 秋山正子、菊池まゆみ、安藤大輔

○閉会式(16:00~16:30)

※来年は苫小牧市



ホテルから歩いて会場に向かう



< 10月30日(日) >

○観光：ジャンボタクシー貸切（キングタクシー）

ホテル 8:00→抱返り溪谷（美しい紅葉）9:00→角館（武家屋敷散策・仙北市樺細工伝承館・昼食）
→田沢湖（御座石神社・たつこ像など）→秋田国際ダリア園 16:50→秋田空港 17:30

<抱返り溪谷>

東北の耶馬溪とも呼ばれ、大小の滝が流れ落ち、秋には原生林が紅葉して、溪流の澄んだエメラルドブルーと美しいコントラストを見せる溪谷。かつては、人とすれ違う際に体を抱き合わせなければならぬほど道が狭く険しい溪谷だったことから「抱返り」の名がついた。



<角館・武家屋敷>

みちのくの小京都と呼ばれる角館は、1620年（元和6年）芦名義勝によって作られ、秋田藩の中では最も大きな城下町として発展してきた。武家町と町人町に分けられた町並みは、390年近く経った今でもほとんど変わらず、歴史の息づいている。武家屋敷の青柳家とシンポジストとして登壇した安藤大輔氏が経営する安藤醸造を見学した。昼食は比内地鶏の親子丼をいただいた。



<田沢湖>

水深 423.4m の日本一の深さを誇る神秘の湖。深い湖なので、真冬でも凍らない。濃い藍色の美しい湖で、日本のバイカル湖と呼ばれている。かつては玉川温泉から強酸性の水が流れ込み、魚が生息できない湖になったが、中和して生き物がもどってきた。湖岸には餌をもとめるウグイがたくさん群がっていた。かたまえ山森林公園からの田沢湖の展望は、すばらしかった。



<秋田国際ダリア園>

世界 14 カ国、約 6 万本のダリアが咲き誇る花園。毎年多くの新種が発表されており、見頃は 8 月中旬から 11 月上旬で、満開時は豪華絢爛の景観を誇っている。ここで試験栽培された品種が全国各地で生産・販売されている。閉館 10 分前に到着したが、係員のご厚意で薄暗くなったダリア園を無料で案内していただいた。黒いダリアが珍しかった。



<夜の秋田巡り>

夕食会：29日の夜は、秋田料理の店「七福神」で夕食をとった。地酒の多さに驚いた。

陽気なお店のスタッフと一緒に記念撮影。



夜の観光として、料亭がたくさん立ち並ぶ川反通りで、川反祭座が、なまはげ太鼓や竿燈を披露していた。夕食をとっていたため、竿燈以外、見損ねたのが残念だった。

<朝の散策>

赤れんが郷土館：国指定重要文化財。

旧秋田銀行本店として明治末期に建築された華麗な洋風建築。



街の中央を流れる旭川

秋田は紅葉が真っ盛り



秋田県民会館がある千秋公園

初代秋田藩主佐竹義宣の居城、久保田城跡

お堀にはたくさんの蓮が生えていた。

沿道には日本女性会議の幟がたくさん

立てられていた。

